

小学校道徳科学習指導案

- 1 主題名 かけがえのない家族 内容項目【C 家族愛、家庭生活の充実】
- 2 ねらい 家族の中での自分の役割や家族を支えることについて考え、家族の一員として思いやり助け合って、進んで家族の役に立とうとする心情を育てる。
教材名 「ぼくがいるよ」(出典:「みんなの道徳 5年」 学研教育みらい)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校5学年及び6学年の指導の観点は、「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。」である。これは、第1学年及び第2学年の「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。」第3学年及び第4学年の「父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。」を受けて、中学校での「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。」へと発展する。

家庭は、児童にとって最初に集団生活を学ぶ場である。そして、家庭生活は、児童にとって人間形成の大切な基盤となる。この時期に児童が自分なりにできることで家庭生活に貢献すれば、家族のために役立つ喜びを実感できるようになる。その中で、家族が互いに理解し合ったり、支え合ったりすることの大切さに気づかせる。そして、児童自らが家庭生活におけるかけがえのない家族の一員であることの自覚を深めることによって、家族の幸せを求めて、進んで役に立とうとする態度を育てていくことが大切である。

- (2) これまでの学習状況及び児童の実態について
 - (3) 教材の特質や活用方法について
- } (省略)

<ヤングケアラーの扱いについて>

現在、家族の変容が指摘されているが、経済的な格差拡大や少子高齢化などにより、子供が家事をせざるを得ない現状にある家族も少なくない。実際に親が子供の面倒を見ることができない家庭の子供たちは自分で家事をしている。

一方で、本教材は、手術をして料理の味やにおいが分からなくなったお母さんに、もっと「ぼく」を頼ってほしいと思い、家族の食事を作る際に、味付けは「ぼく」がすることを提案するという内容であり、上記のような子供たちの実態と乖離していると捉えることもできる。

そこで、本教材を通し、児童に「家庭生活の充実」について多面的・多角的に考えさせるために、「家庭生活の充実」と「自身の生活の充実」について比較して考えさせたい。その中で、児童の「家族の中で自分の役割を果たしたい。」「もっと頼ってもいい。」という家族への愛情だけでなく、自分自身を大切にすることも重要であると視野が広げられるように展開していく。そして、家事労働を家族の構成員がそれぞれの状況に応じて担う「分担」を考え、誰でも自分の幸せを求めて生きていいのだという考えを深められるよう議論させる。

4 学習指導過程

段階	学習活動 主な発問	・予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 「家庭でのお手伝いと自分のことの優先順位」というアンケート結果を示す。 2 本時の課題を確認する。	お手伝い ・おふろそうじ ・夕食づくりの手伝い。 優先事項 ・宿題 ・習い事 ・ゲーム	・事前にアンケートをとった「家庭でのお手伝いと優先順位」に対する結果を提示する。 ・優先順位が家庭によって違うことを押さえ、ねらいとする価値について問題意識を持てるようにする。	5
課題：家族の中での自分の役割や家族を支えることについて考えよう。				
展開	3 教材「ぼくがいるよ」を読み、主人公の「ぼく」の家族を思う気持ちについて話し合う。	登場人物：ぼく、お母さん、お父さん 条件・状況：手術をして料理の味やにおいがわからなくなったお母さんに、「ぼく」が味つけをすることを提案した。「ぼく」は、お母さんにもっと頼ってほしいと思った。		5
	(1) お母さんが手術後に味とにおいがわからなくなったことをしたとき、「ぼく」	・お母さん、かわいそうだな。 ・これからどうなるのかな。	・道徳的価値を理解させるために、登場人物の行為の背景にある思いについて考えさせる。	5

	<p>はどんな気持ちになったと思いますか。</p> <p>(2) 「ぼく」はどんな思いから、料理をお母さんが担当し、味つけを自分がすることを提案したのでしょうか。</p> <p>(3) 「ぼくにもっと頼ってもいいよ。」と思ったのは、お母さんに対するどんな思いからでしょうか。</p> <p>〈補助発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何でも頼られてしまったらどうするのだろうか。 <p>(4) 家族の中で、自分のお手伝いの優先順位はどうか。</p> <p>〈補助発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果を参考に、今の気持ちの変化をグループ内で伝え合おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にできることはしたいという思い。 ・自分も家族のために頑張りたいという思い。 ・家族なのだから、支え合いたいという思い。 ・お母さんに楽をさせてあげたいという思い。 ・自分ができる範囲だったら力になれる。 ・少しならいいけど、いつもやりたいことを我慢しなくてはいけないのはいやだ。 ・家族を支え合わなければいけないから、1番だと思う。 ・お手伝いをするのは当たり前だから、一番に優先する。 ・家族が病気やけがのときは、最優先だけれど、自分のやることも大切だと思う。 ・まずは、自分のことを優先して、次に家族の手伝いをする。 ・それぞれが自分のことを優先する。手伝って 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面での「ぼく」の気持ちに共感させる。 ・家族の大切さを問う。 ☆主人公に自分を投影しながら、お母さんに対する思いを考え、話し合っている。 ・家族を支えることと自分自身のことの両方について考えを深めていく場につなげていく。 ・教材を読み終え、アンケート結果の優先順位に触れる。家族の手伝いの順位が変わったかを話し合わせる。 	<p>5</p> <p>7</p> <p>15</p>
--	--	--	---	-----------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> 今日の授業の感想をタブレットに記入する。 	<p>欲しいときには直接頼む。</p> <ul style="list-style-type: none"> どちらも大切だから順位はつけられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習アプリの集計機能を活用し、クラスの児童の意見が見られるようにし、様々な意見があることを理解させる。 どの意見も肯定的に捉えさせる。 <p>☆家族の一員として思いやり、助け合って、進んで家族の役に立とうと考えている。</p>	
終末	<p>4 お手伝いなど家族に関することで困ったことがあったら周囲の人たちや専門の相談窓口に相談することを伝える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省の「子どもが子どもでいられる街に。」を参照する。 プライバシーに配慮するため、ヤングケアラーという言葉は使わない。 	3

5 他の教育活動との関連（省略）

6 評価の視点

【物事を多面的に考えている様子】

主人公に自分を投影しながら考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わり合いで深めている様子】

家族の一員として思いやり、助け合って、進んで家族の役に立とうと考えている。

7 板書計画

厚生労働省 資料	相談先紹介 資料	<ul style="list-style-type: none">・ 家族のためにがんばりたい・ お母さんに楽をさせたい・ 家族だから当たり前	「ぼくにもっと頼ってもいいよ。」と 思ったのは、お母さんに対する どんな思いからでしょうか。	<ul style="list-style-type: none">・ 自分にできる事をしたい・・	「ぼく」はどんな思いから、 味付けを自分がすることを 提案したのでしょうか。	ぼくがいるよ 家庭での役割
-------------	-------------	--	--	---	--	------------------

8 参考資料

“子どもが子どもでいられる街に。” . 厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/young-carer/> (参照 2022-10-25)